

2018年11月14日

「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための自主行動計画」

2017年度フォローアップ調査結果

一般社団法人日本冷凍食品協会

<はじめに>

当協会は、2006年（平成18年）3月に策定した『冷凍食品業界における容器包装3R推進のための自主行動計画』（第一次）では、2010年の最終年度に2004年度比で原単位あたり3%削減の目標を設定し、5.8%削減を達成した。

その後、2012年（平成24年）3月に策定した『冷凍食品業界における容器包装3R推進のための第二次自主行動計画』では、2015年度までに2004年度比で原単位あたり9%削減する目標を設定し、18.9%削減と大幅に目標を上回った。

さらに2017年（平成29年）3月に策定した『冷凍食品業界における容器包装3R推進のための第三次自主行動計画』では、2020年度までに2004年度比で原単位あたり22%削減する目標を設定し、プラスチック容器包装のリデュースを更にすすめているところである。

3Rとは、リデュース(Reduce：減量)、リユース(Reuse：再利用)、リサイクル(Recycle：再生利用)のことであるが、このうち容器包装リサイクル法の対象が一般廃棄物として家庭から排出される容器包装であり、また、冷凍食品の場合の容器包装はほとんどプラスチックであるため、調査対象は家庭用冷凍食品のプラスチック容器包装に限定している。

また、この自主行動計画では、「取組みの結果については毎年度検証し、公表する」としていることから、フォローアップ調査（2017年度実績）について家庭用冷凍食品メーカー9社を対象に実施した。

2017年度の家計用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量原単位（冷凍食品販売数量当たり）は、前年対比0.8ポイント減少、基準年である2004年度比で22.3%減少と、目標を0.3ポイント上回った。プラスチック使用量の継続的な削減努力をしているが、その下げ幅は小さくなってきている。

これは、パッケージフィルムの薄肉化、ピッチ幅の短縮化などによる冷凍食品メーカーのプラスチック使用量の削減努力の他、小分け資材を多く使用する弁当商材などに比べ、包装原単位の小さい米飯類等の生産が大幅に増加したこと等が要因と考えられる。

＜2017 年度フォローアップ調査結果＞

調査対象：家庭用冷凍食品を製造・販売する大手 9 社

対象商品：プラスチック製容器包装を使用した家庭用冷凍食品

指 数：2004 年度を 100 とする

目 標：2020 年度までに 2004 年度実績比 22%削減（原単位）

※原単位：冷凍食品販売数量当たりのプラスチック容器包装使用量

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
容器包装 使用量 (トン)	13,824	14,592	14,611	13,969	14,249	14,065	15,093	16,605	17,055	18,887	18,526	17,414	18,796	19,095
同 指数	100	105.6	105.7	101.0	103.1	101.7	109.2	120.1	123.4	136.6	134.0	126.0	136.0	138.1
製品販売量 指数	100	105.1	105	106.3	107.9	107.4	115.9	129.6	136.9	161.9	162.3	155.3	173.3	177.8
原単位	100	100.5	100.7	95.1	95.6	94.8	94.2	92.7	90.1	84.4	82.5	81.1	78.5	77.7

(注) 調査対象は、2004～2010 年度が 8 社、2011 年度及び 2012 年度が 9 社、
2013 年度が 10 社、2014 年度以降が 9 社（1 社減は企業合併による）である。

